

## トンネル工事等における地下水位の変化について

大江戸線（平成12年度12月開業）

- 地下水位の変動量（事後調査報告書より）

開削部分

六本木駅（深さ約24m（内回りホームまで42m））

	時 期	地表面からの深さ（m）
施工前	平成 8年 8月	- 11.61
施工中	平成11年 6月	- 29.70
完成後	平成12年12月	- 15.50

工事に着手する前、地表から約12mの深さであった水位が、開削工事実施中に約30mまで低下した。

しかし、工事完成後に約16mまで回復し、その後、徐々に復水する傾向を示している。

シールド部分（深さ約44m）

シールド工法は、円形のトンネルを地中で掘り進んでいくことから、掘削面を崩さず地下水の流れを分断することがないため、地下水への影響が少ない。他の地下鉄等の類似例においても地下水の低下は認められていないため、シールド工事区間における地下水位の変化については、調査の対象としなかった。

環状七号線地下調整池（アセス対象外）（深さ約34～43m）

シールド工法は、円形のトンネルを地中で掘り進んでいくことから、掘削面を崩さず地下水の流れを分断することがないため、地下水への影響が少ないこと、また、この事業はアセス対象事業ではないことなどから、地下水位の変化については、調査を実施していない。

（参考）中央環状新宿線（その他の類似事例）

- 地下水位の変動量

東中野シールド工事区間沿道（深さ約17m）

	時 期	地表面からの深さ（m）
施工前	平成15年11月 8日	- 9.3
施工中	平成15年11月24日	- 9.6
完成後	平成16年 3月 1月	- 9.6

工事に着手する前、地表から約9mの深さであった水位が、工事実施中及び完成後もほとんど変化が見られなかった。

注：深さは、構造物までの土被りをあらわしている